

斎藤茂吉著

万葉秀歌

上卷



岩波新書

R2



斎藤茂吉著

万葉秀歌

上卷

岩波新書

5

斎藤茂吉

1882年—1953年

1910年東京帝国大学医科大学卒業

専門—精神医学，歌人

著書—「赤光」「あらたま」「寒雲」

「白き山」「童馬漫語」

「柿本人麿」

「斎藤茂吉全集」〔全36巻〕

万葉秀歌 上巻（全2冊）

岩波新書（赤版）5

1938年11月20日 第1刷発行

1953年7月31日 第22刷改版発行

1968年11月25日 第44刷改版発行©

1981年5月20日 第59刷発行

定価 380 円

著 者 さい とう も きち
斎 藤 茂 吉

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5

発 行 所 岩 波 書 店

電話 03-265-4111

振替 東京 6-26240

印刷・三秀舎 製本・田中製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

序

万葉集は我國^{わがくに}の大切な歌集で、誰でも読んで好いものとおもうが、何せよ歌の数が四千五百有余もあり、一々注釈書に當つてそれを読破しようというのは並大抵のことではない。そこで選集を作つて歌に親しむということも一つの方法だから本書はその方法を採用した。選ぶ態度は大体すぐれた歌を巻毎に拾うこととし、数は先ず全体の一割ぐらいの見込で、長歌は罷^やめて短歌だけにしたから、万葉の短歌が四千二百足らずあるとして大体一割ぐらい選んだことになるうか。

本書はそのような標準にしたが、これは国民全般が万葉集の短歌として是非知つて居らねばならぬものを出来るだけ選んだためであつて、万人向きという意図はおのずから其^{そこ}処に実行せられてゐるわけである。ゆえに専門家的に漸^{ようや}く標準を高めて行き、読者諸氏は本書から自由に三百首選二百首選一百首選乃至^{なほ}五十首選をも作ることが出来る。それだけの余裕を私は本書のなかに保留して置いた。

そうして選んだ歌に簡単な評釈を加えたが、本書の目的は秀歌の選出にあり、歌が主で注釈が従、評釈は読者諸氏の参考、鑑賞の助手の役目に過ぎないものであつて、而して今は専門学者の高級にして精到な注釈書が幾つも出来ているから、私の評釈の不備な点は其等から自由に補充することが出来る。

右のごとく歌そのものが主眼、評釈はその従属ということにして、一首一首が大切なものだから飽くまで一首一首に執着して、若し大体の意味が呑込めたら、しばらく私の評釈の文から離れ歌自身について反復熟読せられよ。読者諸氏は本書を初から順序立てて読まれても好し、行き当たりばったりという工合に頁を繰^{ページ}って出た歌だけを読まれても好し、忙しい諸氏は労働のあいま田畔汽車中電車中食後散策後架上就眠前等々に於て、一、二首或は二、三首乃至十首ぐらいずつ読まれることもまた可能である。要は繰返して読み一首一首を大切に取扱つて、早読して以て軽々しく取扱われないことを望むのである。

本書では一首一首に執着するから、いわゆる万葉の精神、万葉の日本的なもの、万葉の国民性などいうことは論じていない。これに反して一助詞がどう一動詞がどう第三句が奈何結句が奈何というようなことを繰返している。読者諸氏は此等の言に対してしばらく耐忍せられんことをのぞむ。万葉集の傑作といい秀歌と称するものも、地を洗って見れば決して魔法のごとく不可思議なものでなく、素直で当り前な作歌の常道を踏んでいるのに他ならぬという、その最

も積極的な例を示すためにいきおいそういう細かきことになったのである。

本書で試みた一首一首の短評中には、先師ほか諸学者の結論が融とけ込んでいること無論であるが、つまりは私の一家見ということになるであろう。そうして万人向きな、誰たれにも分かる「万葉集入門」を意図したのであったのだけれども、いよいよとなれば仮借しない態度を折に触れつつ示した筈はずである。昭和十三年八月二十九日斎藤茂吉。

目次

卷第一

番号	初句	二句	作者	頁
〔四〕	たまきはる・うちのおほぬに		(中皇命)……………	一
〔六〕	やまごしの・かぜをときじみ		(軍王)……………	五
〔七〕	あきのぬの・みくさかりふき		(額田王)……………	七
〔八〕	にぎたづに・ふなのりせむと		(額田王)……………	八
〔九〕	きのくにの・やまこえてゆけ		(額田王)……………	二
〔二〕	わがせこは・かりほつくらす		(中皇命)……………	四
〔三〕	わがほりし・ぬじまはみせつ		(中皇命)……………	五
〔一四〕	かくやまと・みみなしやまと		(天智天皇)……………	七
〔一五〕	わたつみの・とよはたぐもに		(天智天皇)……………	六
〔一八〕	みわやまを・しかもかくすか		(額田王)……………	三
〔二〇〕	あかねさす・むらさきぬゆき		(額田王)……………	五
〔三〕	むらさきの・にほへるいもを		(天武天皇)……………	七

〔三〕	かはかみの・ゆついはむらに	(吹黄刀自)	三
〔二四〕	うつせみの・いのちををしみ	(麻統王)	三
〔二六〕	はるすぎて・なつきたるらし	(持統天皇)	三
〔三〇〕	ささなみの・しがのからさき	(柿本人麿)	四
〔三一〕	ささなみの・しがのおほわだ	(柿本人麿)	四
〔三二〕	いにしへの・ひとにわれあれや	(高市古人)	五
〔三九〕	やまかはも・よりてつかふる	(柿本人麿)	五
〔四〇〕	あごのうらに・ふなのりすらむ	(柿本人麿)	五
〔四二〕	しほさるに・いらごのしまべ	(柿本人麿)	五
〔四三〕	わがせこは・いづくゆくらむ	(当麻麿の妻)	五
〔四四〕	あきのぬに・やどるたびびと	(柿本人麿)	四
〔四四〕	ひむがしの・ぬにかぎろひの	(柿本人麿)	四
〔四九〕	ひなみしの・みこのみことの	(柿本人麿)	四
〔五二〕	うねめの・そでふきかへす	(志貴皇子)	四
〔五五〕	ひくまぬに・にほふはりはら	(長奥麿)	四
〔五九〕	いづくにか・ふなはてすらむ	(高市黒人)	五
〔六三〕	いざこども・はやくやまとへ	(山上憶良)	五
〔六四〕	あしべゆく・かものはがひに	(志貴皇子)	五

卷第二

〔壹〕	あられうつ・あられまつばら	(長皇子)	壹
〔七〇〕	やまとには・なきてかくらむ	(高市黒人)	貳
〔七四〕	みよしぬの・やまのあらしの	(作者不詳)	弐
〔七六〕	ますらをの・とものおとすなり	(元明天皇)	弐
〔七六〕	とぶとりの・あすかのさとを	(作者不詳)	叁
〔八二〕	うらさぶる・こころさまねし	(長田王)	叁
〔八四〕	あきさらば・いまもみるごと	(長皇子)	叁
〔八〕	あきのたの・ほのへにきらふ	(磐姫皇后)	壹
〔九一〕	いもがいへも・つぎてみましを	(天智天皇)	壹
〔九二〕	あきやまの・このしたがり	(鏡王女)	壹
〔九四〕	たまくしげ・みむろのやまの	(藤原鎌足)	充
〔九五〕	われはもや・やすみこえたり	(藤原鎌足)	七
〔一〇三〕	わがさとに・おほゆきふれり	(天武天皇)	七
〔一〇四〕	わがをかの・おかみにいひて	(藤原夫人)	七
〔一〇五〕	わがせこを・やまとへやると	(大伯皇女)	七
〔一〇六〕	ふたりゆけど・ゆきすぎがたき	(大伯皇女)	七

〔一〇七〕	あしひきの・やまのしづくに	(大津皇子)	七
〔一一〕	いにしへに・こふるとりかも	(弓削皇子)	六
〔一六〕	ひとごとを・しげみこちたみ	(但馬皇女)	六
〔一三〕	いはみのや・たかつぬやまの	(柿本人麿)	六
〔一三〕	ささのはは・みやまもさやに	(柿本人麿)	六
〔一六〕	あをこまの・あがきをはやみ	(柿本人麿)	六
〔四一〕	いはしろの・はままつがえを	(有間皇子)	五
〔四一〕	いへにあれば・けにもるいひを	(有間皇子)	五
〔四七〕	あまのはら・ふりさけみれば	(倭姫皇后)	九
〔四八〕	あをはたの・こはたのうへを	(倭姫皇后)	九
〔四九〕	ひとはよし・おもひやむとも	(倭姫皇后)	九
〔五八〕	やまぶきの・たちよそひたる	(高市皇子)	九
〔六一〕	きたやまに・つらなるくもの	(持統天皇)	九
〔六三〕	かむかぜの・いせのくににも	(大来皇女)	七
〔六五〕	うつそみの・ひとなるわれや	(大来皇女)	七
〔六六〕	いそのうへに・おふるあしびを	(大来皇女)	七
〔六九〕	あかねさす・ひはてらせれど	(柿本人麿)	九
〔七〇〕	しまのみや・まがりのいけの	(柿本人麿)	一〇

卷第三

〔一八四〕 ひむがしの・たぎのみかどに (日並皇子宮の舍人)……………二〇三

〔一八九〕 あさひてる・しまのみかどに (日並皇子宮の舍人)……………二〇三

〔一九五〕 しきたへの・そでかへしきみ (柿本人麿)……………二〇三

〔二〇三〕 ふるゆきは・あはになふりそ (穂積皇子)……………二〇四

〔二〇八〕 あきやまの・もみちをしげみ (柿本人麿)……………二〇五

〔二一八〕 ささなみの・しがつのこらが (柿本人麿)……………二〇七

〔二二三〕 つまもあらば・つみてたげまし (柿本人麿)……………二〇八

〔二三三〕 かもやまの・いはねしまける (柿本人麿)……………二〇九

〔二三五〕 おほきみは・かみにしませば (柿本人麿)……………二二

〔二三六〕 いなといへど・しふるしひのが (持統天皇)……………二三

〔二三七〕 いなといへど・かたれかたれと (志斐姫)……………二三

〔二三八〕 おほみやの・うちまできこゆ (長意吉麻呂)……………二四

〔二四二〕 たぎのうへの・みふねのやまに (弓削皇子)……………二五

〔二五〇〕 たまもかる・みぬめをすぎて (柿本人麿)……………二六

〔二五三〕 いなびぬも・ゆきすぎがてに (柿本人麿)……………二八

〔二五四〕 ともしびの・あかしおほとに (柿本人麿)……………二九

- 〔三五〕 あまざかる・ひなのながぢゆ (柿本人麿)……………三三
- 〔三六〕 やつりやま・こだちもみえず (柿本人麿)……………三三
- 〔三四〕 もののふの・やそうぢがはの (柿本人麿)……………三三
- 〔三五〕 くるしくも・ふりくるあめか (長興麻呂)……………三五
- 〔三六〕 あふみのうみ・ゆふなみちどり (柿本人麿)……………三六
- 〔三七〕 むささびは・こぬれもとむと (志貴皇子)……………三七
- 〔七〇〕 たびにして・ものこほしきに (高市黒人)……………三九
- 〔七一〕 さくらだへ・たづなきわたる (高市黒人)……………三〇
- 〔七五〕 いづくにか・われはやどらむ (高市黒人)……………三三
- 〔七七〕 とくきても・みてましものを (高市黒人)……………三三
- 〔二七〕 ここにして・いへやもいづく (石上卿)……………三四
- 〔二七〕 ひるみれど・あかぬたごのうら (田口益人)……………三五
- 〔三八〕 たごのうらゆ・うちいでてみれば (山部赤人)……………三六
- 〔三八〕 あをによし・ならのみやこは (小野老)……………三六
- 〔三二〕 わがさかり・またをちめやも (大伴旅人)……………三九
- 〔三三〕 わがいのちも・つねにあらぬか (大伴旅人)……………四〇
- 〔三六〕 しらぬひ・つくしのわたし (沙弥満誓)……………四一
- 〔三七〕 おくららは・いまはまからむ (山上憶良)……………四三

卷第四

〔三八〕 するしなき・ものをおもはずは (大伴旅人)……………一四

〔三五〕 むこのうらを・こぎたむをぶね (山部赤人)……………一四

〔三七〕 よしぬなる・なつみのかはの (湯原王)……………一四

〔三九〕 かるのいけの・うらみゆきめぐる (紀皇女)……………一四

〔三九〕 みちのくの・まぬのかやはら (笠女郎)……………一五

〔四一〕 ももつたふ・いはれのいけに (大津皇子)……………一五

〔四二〕 とよくにの・かがみのやまの (手持女王)……………一五

〔四二〕 いはとわる・たちからもがも (手持女王)……………一五

〔四三〕 やくもさす・いづものこらが (柿本人麿)……………一五

〔四三〕 われもみつ・ひとにもつげむ (山部赤人)……………一五

〔四四〕 わぎもこが・みしとものうらの (大伴旅人)……………一五

〔四四〕 いもとこし・みぬめのさきを (大伴旅人)……………一五

〔四五〕 いもとして・ふたりつくりし (大伴旅人)……………一五

〔四七〕 あしひきの・やまさへひかり (大伴家持)……………一五

卷第四

〔四八〕 やまのはに・あぢむらさわぎ (舒明天皇)……………一六

〔四八〕 きみまつと・わがこひをれば (額田王)……………一六

卷第五

〔五〇五〕 いまさらに・なにをかおもはむ (安倍女郎)……………一五

〔五〇三〕 おほはらの・このいつしばの (志貴皇子)……………一六

〔五〇二〕 にはにたつ・あさてかりほし (常陸娘子)……………一六

〔五〇四〕 ここにありて・つくしやいづく (大伴旅人)……………一七

〔五〇三〕 きみにこひ・いたもすべなみ (笠女郎)……………一六

〔六〇八〕 あひおもはぬ・ひとをおもふは (笠女郎)……………一六

〔六〇五〕 おきへゆき・へにゆきいまや (高安王)……………一六

〔六〇〇〕 つくよみの・ひかりにきませ (湯原王)……………一七

〔七〇九〕 ゆふやみは・みちたづたづし (大宅女)……………一七

〔七〇九〕 ひさかたの・あめのふるひを (大伴家持)……………一七

〔七九三〕 よのなかは・むなしきものと (大伴旅人)……………一七

〔七九七〕 くやしかも・かくしらませば (山上憶良)……………一七

〔七九八〕 いもがみし・あふちのはなは (山上憶良)……………一七

〔七九九〕 おほぬやま・きりたちわたる (山上憶良)……………一七

〔八〇二〕 ひさかたの・あまぢはとほし (山上憶良)……………一八

〔八〇三〕 しろがねも・くがねもたまも (山上憶良)……………一八

卷第六

〔八八〕	つねしらぬ・みちのながてを	(山上憶良)	一八三
〔八九〕	よのなかを・うしとやさしと	(山上憶良)	一八五
〔九〇〕	なぐさむる・こころはなしに	(山上憶良)	一八六
〔九一〕	すべもなく・くるしくあれば	(山上憶良)	一八七
〔九二〕	わかければ・みちゆきしらじ	(山上憶良)	一八八
〔九三〕	ふせおきて・われはこひのむ	(山上憶良)	一八九
〔九四〕	やまたかみ・しらゆふはなに	(笠金村)	一九一
〔九五〕	おきつしま・ありそのたまも	(山部赤人)	一九三
〔九六〕	わかのうらに・しほみちくれば	(山部赤人)	一九三
〔九七〕	みよしぬの・きさやまのまの	(山部赤人)	一九五
〔九八〕	ぬばたまの・よのふけぬれば	(山部赤人)	一九六
〔九九〕	しまがくり・わがこぎくれば	(山部赤人)	一九六
〔一〇〇〕	かせふけば・なみかたたむと	(山部赤人)	一九九
〔一〇一〕	ますらをと・おもへるわれや	(大伴旅人)	二〇〇
〔一〇二〕	ちよろづの・いくさなりとも	(高橋虫麿)	二〇一
〔一〇三〕	ますらをの・ゆくとふみちぞ	(聖武天皇)	二〇三

〔九七〕をのこやも・むなしかるべき……………(山上憶良)……………二〇三

〔九八〕ふりさけて・みかづきみれば……………(大伴家持)……………二〇四

〔九六〕みたみわれ・いけるしるしあり……………(海犬養岡麿)……………二〇六

〔一〇〇〕こらしあらば・ふたりきかむを……………(守部王)……………二〇七

卷第七

〔二七四〕かすがやま・おしててらせる……………(作者不詳)……………二〇八

〔二七五〕うなばらの・みちとほみかも……………(作者不詳)……………二〇九

〔二八七〕あなしがは・かはなみたちぬ……………(柿本人麿歌集)……………二一〇

〔二八八〕あしひきの・やまがはのせの……………(柿本人麿歌集)……………二一一

〔二八九〕おほうみに・しまもあらなくに……………(作者不詳)……………二一二

〔二九五〕みもろつく・みわやまみれば……………(作者不詳)……………二一三

〔二二〇〕ぬばたまの・よるさきくれば……………(柿本人麿歌集)……………二一四

〔二二八〕いにしへに・ありけむひとも……………(柿本人麿歌集)……………二一五

〔二二三〕やまのまに・わたるあきさの……………(作者不詳)……………二一六

〔二二八〕うちがはを・ふねわたせをと……………(作者不詳)……………二一六

〔二四〇〕しながどり・あなぬをくれば……………(作者不詳)……………二一七

〔二二九〕いへにして・われはこひむな……………(作者不詳)……………二一八

従属選出歌

〔二四〇〕	たまくしげ・みもろとやまを	(作者不詳)	三九
〔二六三〕	あかときと・よがらすなけど	(作者不詳)	三〇
〔二六九〕	まきむくの・やまべとよみて	(柿本人麿歌集)	三二
〔二八五〕	はるひすら・たにたちつかる	(柿本人麿歌集)	三三
〔三三六〕	ふゆごもり・はるのおほぬを	(作者不詳)	三三
〔四〇六〕	あきつぬに・あさゐるくもの	(作者不詳)	三四
〔四二二〕	さきはひの・いかなるひとか	(作者不詳)	三五
〔四二三〕	わがせこを・いづくゆかめと	(作者不詳)	三六

〔一〇〕	きみがよも・わがよもしらむ	(中皇命)	一六
〔二三〕	うちそを・をみのおほきみ	(作者不詳)	三〇
〔五九〕	ながらふる・つまふくかぜの	(誉謝女王)	五九
〔六九〕	くさまくら・たびゆくきみと	(清江娘子)	五九
〔七七〕	わがおほきみ・ものなおもほし	(御名部皇女)	六〇
〔八五〕	きみがゆき・けながくなりぬ	(磐姫皇后)	六六
〔八六〕	かくばかり・こひつつあらずは	(磐姫皇后)	六六
〔八七〕	ありつつも・きみをばまたむ	(磐姫皇后)	六六